

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 ただいまから、平成26年1月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、次第に記載ございます4項目と読売巨人軍の内海投手のふるさと納税について発表させていただきたいと思っております。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思います。なお、終了は14時30分を予定してございます。よろしく願いいたします。

【市長】 健やかな新年を迎えられたというふうに思っております。

先ほどの市民交流会でも話をしておりますけれども、大変厳しい環境の中ではありますが、ことしは少しいい年になるんじゃないかという期待を持って新年を私どもも迎えたわけでございます。高速交通体系の整備、また高木先生もおっしゃっておりましたけれども、エネルギーのほうも少しよくなるんじゃないかなという期待も持っておるところでございます。

それでは、発表内容から説明をさせていただきます。

まず、26年度の敦賀港へのクルーズ客船の決定ということでございます。

私ども敦賀港、クルーズについてもいろいろと努力をいたしておるところでございますけれども、今回は「ばしふいっくびいなす」、それと「飛鳥Ⅱ」が寄港することになりました。スケジュールは別紙お手元に配ってあるとおりでございますけれども、「ばしふいっくびいなす」は定番の利尻島・礼文島クルーズ、また東北二大祭りのクルーズに加えまして2本の外航クルーズでの寄港が決まっております。ロシア方面、また韓国・釜山とウラジオストククルーズなどがございます。また「飛鳥Ⅱ」、日本最大のクルーズ客船でありますけれども、釜山・境港クルーズは、寄港は敦賀にはしておりますが、北陸、敦賀港で発着というのは初めてだと伺っております。これからも多くの船が来て、またお客さんが敦賀港に来ていただけるように努力したいなというふうに思っているところであります。

次に、外航クルーズ客船の関係者が敦賀市に来るということでありまして、ロイヤル・カリビアン・インターナショナルという会社であります。この会社については世界最大級のクルーズ客船のグループでありまして、「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」、これは3,000人以上が乗る客船であります。そういう方が一度敦賀港の視察をしてということで、できれば今回の視察を通じてぜひまた敦賀港に寄港していただくことを願っておるところでございます。

これからもクルーズの港としていろいろPRしていきたい、このようにも思っております。

次に、出初め式でありますけれども、これは恒例であります。

1月13日の月曜日でありますけれども、例年のように一斉放水から始まって分列行進、つるが鳶のはしご乗りの演技等々を行う予定でございます。

次に、文化財の火災防御訓練であります。

これは1月26日でありますけれども、ご承知のとおり、かつて法隆寺が火災になったということを受けて、文化財を守ろうということで実施をいたしておるところでございます。9時から10時まで、ことしは西福寺のほうで行う予定でございます。

次に、先ほど追加させていただきました読売巨人軍の内海哲也投手のほうから、敦賀市内の子供たちのスポーツ技術の向上に役立ててほしいということで、ふるさと納税をお振り込みいただいたわけでございます。金額は500万円でございます。大変ありがたいことありますし、また敦賀市民の皆さん方も大きな喜びを感じたんじゃないかなというふうに思っています。

ご承知でありますけれども、内海投手は高校時代、敦賀気比高校に在籍をいたしておりまして敦賀で過ごされておりました。敦賀を第二のふるさとというふうに思っていたいておりまして、子供たちを応援したいという、その気持ちをふるさと納税という形でいた

だいたわけてございます。

今まで敦賀市はふるさと納税、県内でも非常に順位が低かったんですけれども、この内海投手のおかげで一気に上位のほうに上がったなということで大変うれしく思うところでございますし、個人的に読売ジャイアンツのファンでございます。敦賀も阪神ファンが半分、あとの半分がジャイアンツ、あと残り中日もおりますけれども、非常にジャイアンツのファンの多いところでありまして、内海投手はご承知のとおりにジャイアンツのエースでございますので、非常に明るい話題じゃないかなというふうに思っております、お正月に大変ふさわしい話題だというふうに思っているところでございます。

私のほうからは以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表させていただきました5項目につきましてご質問をお受けしたいと思っております。

【記者】 2点ありまして、一つはクルーズ客船ですけれども、昨年も見送り隊をつくったりして非常に歓迎をしようという市を挙げての取り組みをされているわけですが、本年はどれぐらいクルーズ客船の寄港回数というんですかね、どれぐらいあって、どれぐらいの人数を呼び入れたいという目標があるんでしょうか。

【市長】 まず回数でありますけれども、お手元にスケジュールがありますけれども、このような形で入港いたします。それで一応5回、発着があたり寄ったりということで少し回数が変わるんですけれども、こういう形で行っています。乗員につきましては、国内のクルーズでほかから乗ってきて敦賀でおります。そしてまた、外航に向かうクルーズで今度は敦賀から乗って釜山へ行ったりというものがございまして、人数的には、「ばしふいっくびいなす」で恐らく400人ぐらいだと思います。「飛鳥Ⅱ」も満席でなかなか800人が乗って運航というのは少ないようですので、1航路当たり300から400のお客さんが敦賀に寄港してくれるんじゃないかなというふうに思います。

また、見送り隊につきましては、ことしも引き続いて行いたいというふうに思っているところでございます。

【記者】 もう1点、内海投手のふるさと納税ですけれども、いつ申し出があって、今回は初めてなのかどうか。この2点についてお願いします。

【市長】 前からそういう意向もいただいておったようでございますし、入金いただいたのは12月27日、年末にご入金をいただきました。そういう意味で、内海投手もこちらにたまに帰ってきておられますし、お母さんのお店もございまして、やはり同級生がいたり、そういう関係で敦賀には年に何度か来ていただいておるようでございます。そういう中で、こういう形で寄附をいただいたというふうに思っています。

【記者】 500万円というのは、個人としては過去最高額になるのですか。

【市長】 敦賀では過去最高であります。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いしたいというふうに思います。

発表項目につきましてご質問ございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 内海投手の件なんですけれども、事務的な話で申しわけないんですけれども、納税の手続きはいつとられたんですかね。12月ですか。

【企画政策部長】 手続きといいますか、内海投手のほうから20日に申し出がございまして、それから12月27日に振り込みがあったということでございます。近くの銀行のほうですけれども。市宛てに。

【記者】 先ほど子供たちの技術向上の話があったんですけれども、例えば、もともと高校時代の3年間敦賀にお世話になったという話とか、何かそういうことは伝わってきているんでしょうか。恩返しをしたいとかというようなニュアンスのことを言っていないんですかね。

【市長】 私はまだ内海投手とは個人的にお話はしておりませんので、また近いうちに上京した折にでもお礼にとは思っています。そのときにまた具体的にお話が聞けたらなというふうに思っています。

先ほど、これはちなみにの話ですけれども、いろんなプロ野球の選手等々がふるさと納税ということで、やはり一番多いのはイチロー選手ですね。宮崎県のほうに1,000万円振り込んでいただいたんで、内海投手もことしも最多勝、またすばらしい賞をとっていただき

ますとまたふえるんじゃないかなという期待をしております。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へということでよろしく願いをいたします。

【記者】 きょうも、原子力機構のほうが始の挨拶で早期の運転再開をしたいということで、所長、副理事長とおっしゃっていたんですけれども、先ほどももんじゅのパソコンがウイルスに感染したということで、またまたトラブルからこの1年もスタートを切ったということですが、原子力機構に対する安心・安全と常々市長がおっしゃっている中で、この問題についての感想と、今後原子力機構に求めたいことをお願いします。

【市長】 私どももウイルスに感染したという話を聞きまして、コンピュータがそういうふうな形で感染されるというのは、不注意によるものなのか、意図的なものなのか、ちょっと理解はできないんですけれども、そういうことのないように十分気をつけていただきたいというふうに思います。

やはり原子力機構としての大きな目標があるわけでございますので、それは市民にしっかりと信頼されて、そして本来の目的である高速増殖炉もんじゅを動かしていくということだと思っておりますので、その目的に向かってしっかりとるように注文したいというふうに思います。

【記者】 もう1点、原子力機構について、アクアトムなんですけれども、年末いよいよ計画が決まりそうだったようですけれども、最終的に横から県庁のほうのうちもかませてほしいと、一部では横やりが入ってきたということがあるわけなんですけれども、もともと市有地で原子力機構も敦賀市と交渉をします。つまり1対1の関係だったわけなんですけれども、県の対応について一言。それと今後の計画を、今まで年内、年度内ということで早期に、まちづくりのためにも活性化のためにも必要だとおっしゃっていたわけなんですけれども、今回の事態についての感想をお願いします。

【市長】 まず県のほう、横やりというよりも、やはり心配をさせていただいているというふうに思います。あれだけの立派な施設ですので、それを何らかで活用できたらいいんじゃないかという思いでお話をさせていただいたんじゃないかなというふうに思っています。そういう会議を持っていたというふうに思っております。

塚本副市長はその委員でもございますので、塚本副市長のほうからお話があると思えます。

【塚本副市長】 年末の12月27日に関係者が集まりました。その中で、今までの経緯の説明がありました。それを確認すること、あるいは壊すにせよ保存するにせよ、利活用についてお互い関係者が確認し合うというんですかね、そういうための会議でございました。それが昨年、急遽行われたわけでございます。

【記者】 県が入ることによって計画がおくれるんじゃないかという懸念は当然あるわけなんですけれども、そのあたりの心配はないですか。

【塚本副市長】 これは最初、関係者会議を催すというんですかね、主催者側というのは機構のほうですけれども、県及び市、文科省の4者でやっているんですけれども、結論をだらだらとやるというふうな会議ではないです。ですから、多分1月の中旬ぐらいをめぐりに一定の結論が出るというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社ご質問を受けたいと思います。

【記者】 今の関連で、横やりというふうな話もありましたけれども、今、塚本副市長が1月中旬をめぐりにというのは、活用の方向で検討しているというふうに思えばいいんですかね。

【塚本副市長】 中身については今ちょっと申し上げるわけにはいきませんが、活用もあれば取り壊しも可能性としては両方あると思えます。

【記者】 では、解体も含めての検討になるという。

【塚本副市長】 そういうふうに理解していただいて結構です。

【記者】 県が入るというのは、何かかんかで県がかかわるという意味だと思うんですけれども、そこは……。

【塚本副市長】 確かにアクアトムがあるのは敦賀市でありますけれども、これは福井県

でもありますので、できることなら多分、機構にとってみれば県にも説明し、市とも随分今までやってきましたけれども、県にもきちっと説明をして理解を得たいというところではないのかなというふうに思っていますけれども。

【記者】 使い方に関して何か県がアイデアを持っているということではないんでしょうか。

【塚本副市長】 幾つかの考えはあるように聞いていますけれども、それが実現できるのかどうかというのは別問題やと思いますけれども。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

【記者】 年の初めということですので、ことしの原子力行政について全般的なお考えを改めてここでちょっとお話しただければと思うんですが、昨年末、敦賀原発に関しては、委員による再調査の方向性が出ました。いつになるかというのは今後ですけども、もんじゅも含めて、去年は県内を含めて全国の原発がとまるというふうな状況の中で、ことしはそういう意味では前に一步踏み出す年になる可能性が出てきているというふうにも思います。このあたり、市長としてはことしの原子力行政に関する展望をどのようにお考えでしょう。

【市長】 先ほどの年賀会で高木毅副大臣もお話を熱心にされておられまして、私も同じ考えでございます。やはりエネルギー基本計画の中で原子力がベース電源というふうに位置づけがされまして、確かに明確にリプレース、新增設というのは書いてはございませんけれども、そういうニュアンスを残した形で最終的な基本計画というものができるんじゃないかなと私も思っております。

そういう意味で、やはりこれだけの経済状況、まして今、アベノミクスによって少しずつよくなっている経済であります。やはりしっかりとした電力を確保していくということは非常に大切でありますので、そういう意味で原子力がまだ当分の間——私は当分というのは大体50年から100年と見ておりますけれども——必要だという認識の中でいけば、当然新增設、リプレースも含めていろんな動きが出てくるように感じております。そういう意味で大きな期待をしておるわけであります。

2号機につきましても副大臣からお話ございましたとおり、やはり規制委員会として有識者も1月中には入ってきていろいろまた調査をするということでございますので、最初結論が出されたときにはとてもそんな見直し作業に入るような状況ではないということがここまですべて変わってきております。そういう意味では、政権もかわって原子力がベース電源というふうに位置づけられたものを受けたのか受けなかったのか個人的にはわかりませんが、やはり再調査をされるということは、今度は2号機が稼働する可能性も否定できないというふうに私は思っておりますので、そういうことも期待したいなというふうに思います。

当然、もんじゅにつきましても先ほども触れましたが、所期の目的、廃棄物の減容化、また放射線の危険を少しでも短くするという非常に重要な使命を持っておりますので、そういうことをしっかり担うために、もんじゅがいい形で信頼されて稼働するということを期待いたしております。

【記者】 今の原子力のことについてですが、先ほどの市民交流会ですか、そこでのご挨拶で、市長は原子力のゲの字もお触れにならなかったです。非常に珍しいことかと思いません。就任以来初めてじゃないかというふうに思っておりますが、年頭の挨拶で原子力のゲの字に一度も触れなかったというのはどういうお心なのか、ぜひ教えてください。

【市長】 やはり少し前向きになってきておりますし、冒頭で申しました、ことしこそは少しいい年になるんじゃないかという部分に含んだつもりでございます。そういう意味で何とか前向きでいくんじゃないかという思いがあったもんですから、あえて触れなかったか、少し忘れていたかどちらかです。

【記者】 あともう1点なんですが、ことしは河瀬市政5期目の最終年に当たる年になります。そのお心意気と、それから5期目ということで河瀬市長さんの総決算にもなるのかなといういろいろ思いをめぐらせているわけですが、その辺のことをお聞かせ願えませんでしょうか。

【市長】 確かに26年度というのは私にとりましても最終年度でございますので、市長とし

て4月から20年目を迎えるわけでございます。一つの総仕上げという意味での5期目で戦って、その後任務に取り組んできたわけでございますが、それも本当に最終年度になりました。これも年賀でお話ししましたとおり、本当にことしは少しいい年になったなという思い、それを実現するために一生懸命頑張りたい、このように思っておるところでございます。

【記者】 そのためにはことし1年何をやっていかなきゃいけないとか、具体的に何かありましたらひとつお聞かせ願えませんでしょうか。

【市長】 具体的には、これから予算査定も行いながら26年度のまちづくりに向けていろいろ施策を打っていくわけでございますが、それは中心市街地、そしてレンガ倉庫、大学もしっかりやっていかなくちやなりませんし、駅舎もでき多くのお客さんをお迎えする、また舞若線も26年度中には開通ということで、そういうことにやはり着実に取り組んでいくということが大事ななというふうに思っています。それと、やはり港、ポートセールスを含めて、おかげさまで昨年も非常に荷物が順調にふえてまいりましたので、取扱貨物量ももっとふえるようにポートセールスなどもしっかり行っていきたいというふうに思っております。

具体的には、今までやってきたことの積み重ねをしっかりとやることだというふうに思っております。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 年末年始、敦賀病院でノロウイルス感染があったと思うんですけども、現在の感染者の数と、市長さん自体は、嶺南の基幹病院としての敦賀病院がこういうふうな事態になったということはどのように捉えているのかというのを伺いたいです。

【市長】 細かい数字はまた事務局長のほうからお答えあるというふうに思いますけれども、やはり基幹病院として、病院の中でああいうノロウイルスが発生したというのは非常に遺憾だというふうに思っておりますし、また入院されていた皆さん方、また地域住民の皆さん方には大変申しわけないなという思いでいっぱいでございます。

おかげさまで重症者が出なかったのが不幸中の幸いでございますし、今後二度とこういうことのないように衛生管理、安全面をしっかりとやるように関係者にも指示してございますので、これからは二度とそういうことがないというふうに確信をいたしております。

【敦賀病院事務局長】 これまでの発症者総数につきましては41名でございます。現在まだ4名の方が回復には至ってございません。

【記者】 回復に至っていないというのは。

【敦賀病院事務局長】 まだ下痢の症状があるということです。

【記者】 最近発症された方4名のこと……。

【敦賀病院事務局長】 そうですね。

【記者】 米島院長が2日に出された談話のときに、委託している調理業者の指導を強化するというふうなコメントを出されたと思うんですけども、実際、それ以降消毒に携わっていた職員の方も感染がわかりまして、調理業者だけの責任ではなくなってきて、市の対応のまずさも明らかになってきているのかなと思うんですけども、今後、再発防止はどういうふうにしていくつもりなのでしょう。

【敦賀病院事務局長】 まずやはり環境整備ということで各病棟の洗浄、消毒、それと外来の洗浄、消毒、特に調理場及びその周辺、これの洗浄、消毒をやっていくと。それと調理従事者の健康管理、これを徹底してやっていきたいと考えています。

【記者】 いつまでやっていくんですか。

【敦賀病院事務局長】 まずはその収束を目指してきめ細かにやっていきたい。

【記者】 4名というのは、看護師さんとか内訳は。

【敦賀病院事務局長】 今まだ症状を呈しているのは入院患者さんでございます。

【記者】 高齢の方なんですかね。

【敦賀病院事務局長】 20代から90代までが感染されましたので。

【記者】 重症ではない、4名とも軽症なんですか。

【敦賀病院事務局長】 そうですね。重症化の患者はいません。

【記者】 41人の内訳ちょっと教えてください。

【敦賀病院事務局長】 入院患者さんが30名、看護師が8名、事務職員が2名、調理員が1名、これが私どもで検査して確認できたものです。

【記者】 事務職というのは一般の……。

【敦賀病院事務局長】 我々、総務企画課の職員でございます。

【記者】 二次感染ですよ。

【敦賀病院事務局長】 であると認識しています。

【記者】 あと、院内の給食施設は再開しているんですか。

【敦賀病院事務局長】 はい。4日の朝食から再開してございます。

【記者】 今回、幸いながら重症に至る人はまだ出ていないと思うんですけども、調理を再開するとか、二次感染が広がっているとか、そういうことはやっぱり逐次発表すべきではないかなと思うんですけども、病院としてはどういうふうを考えて今回広報されたんでしょうか。

【敦賀病院事務局長】 病院食が原因として食中毒の疑いということで、まず保健所に届け出をしました。あと、食中毒かどうかの判断根拠については保健所の方と協議しながら。ただ、保健所の方が判断根拠については速やかに出ないということでしたので、病院としては、現状でございますノロウイルス感染者がいるということで、まずは30日にプレスのほうに公表させていただきました。

それとあわせて、2日に保健所のほうから調理場の停止ということで行政処分が出ました。これにつきましても、先ほどありました院長コメントをつけさせていただいて公表をさせていただいているということでございます。

【記者】 今後はもう予定はないですか。

【敦賀病院事務局長】 今後については、これ以上拡大することのないように努力をしてまいりたいと考えています。

【記者】 では、現在の感染者の内訳をまたペーパーで出してもらいたいと思います。

【敦賀病院事務局長】 要望に応じていきたいと考えています。

【秘書広報課長補佐】 そのほかよろしいですか。

【記者】 市長に1点、原子力関係で伺いたいんですけども、年末に規制委員会の田中委員長が塩崎元官房長官とお会いになってお話しされた。独立機関の規制委がそういうような政治家と会うというのは極めて異例ということだったらしいんですけども、ちょっと独善と言われている規制委がそういうような対応をとったというのをどういうふうを受けとめていらっしゃるかというのと、あと、直接市長がこれから田中委員長とかに会ってこういうことを言いたいとかというのが何かあれば教えてください。

【市長】 恐らく独善という、かなり私どもも指摘をしておった中で塩崎先生とお会いになったというのは、これの真意は私にもわかりませんが、いろんな話をされたのかなという想像はいたしております。そういう中で、私どもも常々規制庁にも出向きましてお話ししたときには一切事務方としかお会いできなかったという状況の中で、できれば私どもがお会いして云々ということがないような形になっていけば一番、会う必要ももうないというふうに思うんですが、今後またそういう政治のほうを通じてお会いする機会がもし持てれば、ぜひじかにお話はしてみたいなという気持ちは持っております。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

なければ、これで1月の市長定例記者会見を終了させていただきます。

【市長】 ありがとうございます。

午後2時4分 終了